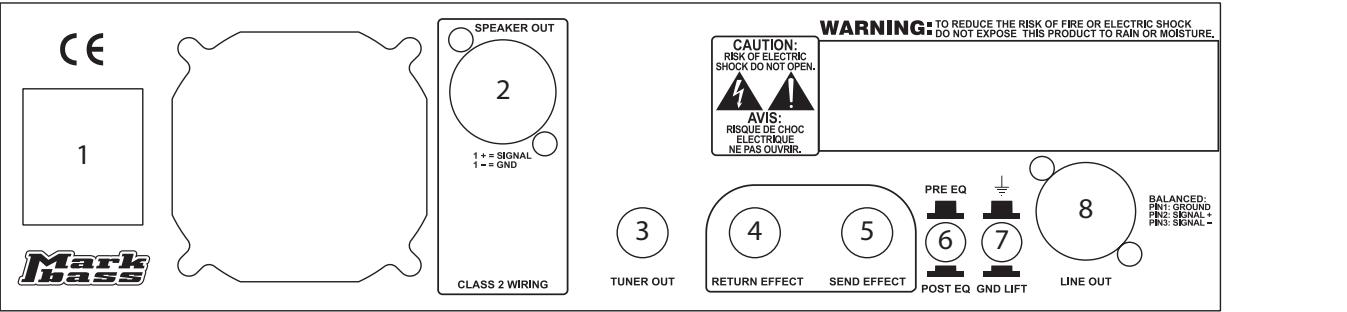


# Mark Bass

## 3. リアパネル



- 1 ACパワー・ソケット
- 2 スピーカーアウト (スピコン・ジャック)
- 3 チュナー・アウト (1/4" フォーン・ジャック)
- 4 エフェクト・リターン (1/4" フォーン・ジャック)
- 5 エフェクト・センド (1/4" フォーン・ジャック)
- 6 ブリ / ポスト・イコライザー・コントロール・スイッチ  
(ラインアウト (XLR) 用)
- 7 グランド・リフト・コントロール・スイッチ  
(ラインアウト (XLR) 用)
- 8 バランスド・ラインアウト (XLR)

## SPEAKER OUT

スピーカーキャビネットを接続する事ができます。  
高品質なノイトリック・スピコン・コネクターのスピーカーケーブルを使用してください。  
また、スピーカーケーブル以外の楽器用ケーブルは使用しないでください。

## TUNER OUT

チュナー・アウト (3) はチュナーにアンバランスト信号を送ります。ペダルを経由して音質を低下させてしまう、といったことがありません。このアウトプットは他のアンプや、バランス入力でなくてもよいレコーディング機器に使うことができます。

## EFFECT SEND AND RETURN

リアパネルのエフェクト・センド (5) とエフェクト・リターン (4) を利用して、エフェクトペダルやラック製品を使うことができます。この接続をしていれば演奏中に外部エフェクターのバッテリーが切れても、音がとぎません。

## LINE OUT

このバランスド XLR ラインアウト (8) は、ライブやスタジオにおいて、バランス信号をミキシング・コンソールなどに送り出すことができます。このラインアウトのシグナルは、ブリ / ポスト・イコライザー・コントロール・スイッチ (6) によって、ブリ EQ (EQ やフィルターのセッティングが効いていない) または、ポスト EQ (EQ やフィルターのセッティングが効いている) を選択することができます。

## GROUND LIFT

ライブなどの演奏中、ラインアウト (8) 使用などの際、アンプの信号にハムノイズが発生する場合があります。これは電源と関連したグラウンドの状態に起因するものです。このグラウンド・リフト・スイッチ (7) を切り替えることにより、ハムノイズを除去することができます。

# Mark Bass

## Little Mark Ninja

## 4. 技術的仕様

### INPUTS

インプット (1/4" ジャック)

インピーダンス 500K Ω、最大ボルテージ 15Vpp

### BALANCED

インピーダンス 100K Ω、最大ボルテージ 25Vpp

### EFFECT

インピーダンス 33K Ω、最大ボルテージ 10Vpp

### CONTROLS

#### ゲイン

-60 dB ~ +23dB レンジ

#### ラインアウト

レベル・コントロール (フロントパネル)

#### ブリ / ポスト EQ

(ラインアウト用)スイッチ (リアパネル)

#### グランド・リフト

スイッチ (リアパネル)

#### マスター・ボリューム

### EQUALIZATION

#### ロー

40Hz 以下、レベル ± 16dB

#### ミッド・ロー

中心周波数 360Hz、レベル ± 16dB

#### ミッド・ハイ

中心周波数 800Hz、レベル ± 16dB

#### ハイ

10KHz 以上、レベル ± 16dB

#### VLE

(ヴィンテージ・ラウドスピーカー・エミュレーター)

最大カット・レンジ 250Hz ~ 20KHz

#### VPF

(バリアブル・ブリシープ・フィルター)

中心周波数 380Hz (カット)

### OUTPUTS

#### エフェクト・センド

アンバランス、最大ボルテージ 20Vpp

#### チュナー・アウト

アンバランス、最大ボルテージ 2Vpp

#### ライン・アウト

バランス XLR、最大ボルテージ 20Vpp

#### スピーカー・アウト

スピコン

#### アウトプット・パワ

600W RMS (8Ω) 1000W RMS (4Ω)

#### 電源

100V 50/60Hz (日本仕様)

注意: 工場出荷時に使用される国 のボルテージに設定されています。  
改造によるボルテージの変更はおやめください。



取扱説明書

**Mark Bass**

Markbass 日本総代理店 :パール楽器製造(株)

〒276-0034 千葉県八千代市八千代台西10-2-1

TEL: 047(484) 9111(代) 営業部 TEL: 047(450) 1113

改良のため予告なく仕様の一部を変更することがありますので、予めご了承ください。

2016年9月作成

## 安全上の御注意！

この度は Markbass ベースアンプをお買いあげいただき有難うございました。

- ・使用開始前に、安全のため下記の説明を良くお読み下さい。
- ・お読みになった後は、必ず保存しておいて下さい。
- ・ここに示した注意事項は、安全に関する重要な内容を記載していますので、下記の指示を必ず守って下さい。
- ・本書では危険や損害の程度を次の区分で表示し、説明しています。

 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を表示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、使用者が傷害を負う可能性、および物的損害のみの発生が想定される内容を表示しています。

・本書で使用する絵表示は、次のような意味です。

 警告	警告・注意を促す内容があることをお知らせするものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。
 禁止	禁止の行為であることを告げるものです。図の中に具体的な禁止内容が描かれています。
 !	行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容が描かれています。

・製品に記されているすべての注意書きに従って下さい。  
・長期間使用しないときは必ず電源を抜いて下さい。  
・延長コードをご使用になる場合は必ず容量に見合ったものをご使用下さい。  
・電源コードは手荒に扱わないで下さい。定期的に断線していないか、あるいはその兆候がないかチェックして下さい。特に両端のモールドの部分に焼けがないか注意して下さい。  
・電源コードの上には何も置かないで下さい。通路にはコードがかからないように設置して下さい。

・キャビネット内の空間、裏面や底面の穴は通気のために設けてあります。穴をふさいだり覆つたりしないでください。十分な空間がないとオーバーヒートの原因になります。本製品をビルトインで設置する場合は、適切な冷却装置を必ず使用下さい。  
・長時間大音量で演奏すると、耳に負担がかかり、難聴になる危険があります。やむをえず必要な場合には、耳栓を使用するなどして、自衛手段を講じて下さい。

・この製品は水気のあるところでご使用にならないで下さい。  
・この製品を不安定な台車、スタンド、またはテーブルなどの上に置かないで下さい。製品が落として故障の原因となることがあります。  
・付属の電源コード以外ご使用にならないでください。また、製品の裏面に表示してある電圧以外での使用は避けて下さい。

 警告	発火や感電を防ぐため、湿度の高いところや雨のあたるところではご使用にならないで下さい。キャビネットの隙間などから異物を入れたりしないで下さい。 内部には専門家以外の方で修理できる箇所はございませんので、異常が発生した場合はお買上になった販売店にご連絡ください。
--	---

## 1. はじめに

このたびは、マークベースをお買上いただき、誠にありがとうございます。私どもはアンプのテクノロジーまたデザインや形に重点をおくだけではなく、ベーシストにとって本当に必要とされるアンプの研究を進めてきました。その結果、高品質な音と魅力的なデザインを持ち、超軽量なヘッドやアンプを開発することができました。マークベースのアンプは、きわめて厳格なテストをパスしたものですので、クラブ、リハーサル会場やコンサートのステージはもちろんのこと、運搬時の過酷な環境にも耐えるうる性能を持っています。もちろん、適切に取り扱うことで、きわめて長い期間にわたって輝かしく、リッチでパワフルなペーストーンを楽しめる事はいうまでもありません。クリアでパワフルなこのアンプがあなたにインスピライアを与え、結果としてよりよい音楽がプレイされること。それこそが我々にとってのミッションの達成、といえるものなのです。それでは、あなたの新しい友 "Markbass" をエンジョイしてください！

### マルコ・デ・ヴァージリスからのメッセージ

それは何年も前のこと、私がイタリアでマークベースの製品コンセプトについて想いをめぐらせていました頃から、私には一つはっきりした目標があったのです。それは、世界中のプロフェッショナル・ベースプレイヤーの要求を満たす、トップ・クオリティのベースアンプを創り出さなければならぬ、ということでした。そしてまた私が想い描くアンプは、コンパクトかつ軽量で、パッシブ / アクティブタイプの多弦ベースを作り出す低域にも対応しうる製品でなければならぬと考えていました。幸いなことに、小型のトランジスタやネオジウムスピーカーといった現代のテクノロジーの恩恵によって、私はついに目標を達成することができたのです。

マークベース・アンプの回路はベース本来のサウンドに色づけすることなく、楽器それぞれが持つ音質を忠実に再生できるよう、特別に設計されたものです。私はマークベース製品をより良いものにするため、世界中のさまざまなプロベースプレイヤーと密接な関係を持ちながら開発を続けてきました。

こうして今、世界中のベース・プレイヤーの要求に応える製品として、マークベースのアンプ、キャビネットのラインアップは確立されたと私は確信しています。

マークベースをご購入いただき誠にありがとうございます。そして、ご購入いただいたアンプが、あなたのサウンドをアップグレードさせる一助となることを願ってやみません。また、さまざまなシチュエーションでマークベースをご使用いただく中で、何かお気づきの点がありましたら、今後の開発の参考とさせていただきますので、ぜひとも私共にお伝えください。

ともかくは、音楽をエンジョイしてください！

器側のボリュームをフルにし、強く激しく音を出しながら、GAIN コントロールを青いランプが点灯はじめるくらいに上げてください。次に、演奏してもライトが点灯しない程度に GAIN をやや絞ってください。この手順により、いま演奏しているベースにとって最適なゲインに設定することができます。なお、ピックアップやアクティブ / パッシブタイプ、またプリアンプや EQ のセッティングなどにより、ベースが異なるとアウトプットレベルもそれぞれ異なります。

いたたん GAIN レベルをセットしたら、あとは MASTER ノブでボリュームを調節してください。

### EQUALIZATION

マークベースアンプはお持ちのベースのナチュラル・サウンドを忠実に再生できるよう設計されています。もしあなたが良い楽器をお持ちならば、イコライゼーションは最低限にとどめておくのがよいでしょう。ベースギターは聞こえないほどの超低域から、ツイーターで鳴らすような、またはほとんど聞こえないような超高域にわたる、極めて幅広い周波数域を再生する楽器なのです。EQ のセッティングをいくつか試してみるとわかりますが、異なる周波数域それぞれが、ベースのトーンを作り出す上において欠くことのできない重要な役割をなっているのです。

LOW コントロールが扱う周波数域は、サウンドにパワー感をもたらす音の土台ともいべき要素で、リスナー、そしてあなたの体をゆさぶり、時には人々が体を動かし・踊りだしてしまうような性質を持つものです。

MID LOW (Mid Frequency Low) はベースサウンドの音圧感を高めるコントロールで、空間をみたすような遠達性のある音を作りだします。

MID HIGH (Mid Frequency High) は、演奏のピッチ感や音程感を調整するのに適したコントロールです。ベースのメロディ・ラインを明瞭に聞かせることができる、透明感豊かな周波数域ということができます。別言すれば、この周波数域が明瞭でないと、あなたが作り出すメロディックなベースサウンドが音楽のなかに埋没してしまう、ということができます。

HIGH の周波数域はアタックや音程感といったパーカッパーな特性を持つもので、これには指 / ピックでの弾弦やフレットノイズ、スラップや演奏時のビリつきなどが含まれています。

この 2 つのフィルターは最初、オフの状態にしておき、徐々にお好みの効果具合に調整してゆくと良いでしょう。また、調整は当初、一方ずつ行い、追って 2 つのフィルターを組み合わせると、素晴らしい効果が得られることでしょう。

のサウンドは正確に反映されなくなってしまう、という言い方もできます。リトルマーク II は全ての周波数域にわたってクリアで明瞭なサウンドを生み出すことができるよう設計されていますので、イコライザーのノブが 12 時のフラットな位置にしておけば、あなたのベース本来のサウンドを再生することができます。

ただ、下記のような状況では、イコライゼーションを行う必要があります。

1. オuchiのベースのサウンドそのものが、特定の周波数域が弱いという特徴を持っている場合。

2. 韻きが悪く、特定の周波数が強調されてしまう部屋や会場での演奏。例えばステージなどで、低域が極端に鳴ってしまう場合や、ある音域だけが目立って大きく鳴ってしまう場合などがこれにあたります。この場合、問題のある周波数域を絞るなどして調整する必要があります。

3. 一種のエフェクトとして音色を変化させようとする場合。

イコライゼーションは繊細に行わなくてはなりません。セッティングの変更を始めるとときは、まず EQ コントロールをすべてニュートラル（12 時）の位置にし、アンプから出力されるベースの音を聞きながら、じっくりと時間をかけて行ってください。いずれにせよ、あまりコントロールに大きな変更を加えない方が理想的です。

### VLE、VPF フィルター

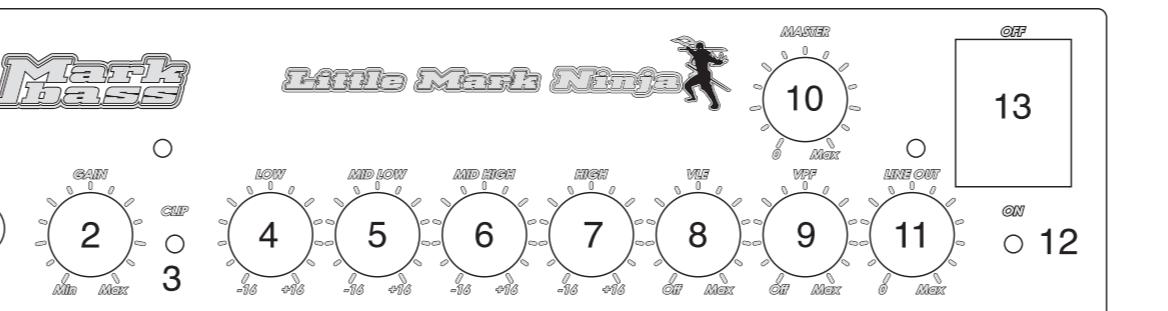
イコライゼーションによってあなたのベースサウンドに特別な効果をもたらす、マジックとも呼ぶべき 2 つのコントロールノブを装備しています。ベースにとっての実戦的な要求に応えるべく、特別に設計されたものですので、通常の EQ よりもひんぱんに使われるノブといえます。

VLE フィルター（8）（ヴィンテージ・ラウドスピーカー・エミュレーター）は、高域をカットし、メロウなサウンドを作り出します。時計まわりにノブを回すと、カットされる高域の周波数が広範囲になります。この EQ は、アコースティック、またはオールディーズ風の音楽に有効です。

VPF フィルター（9）（バリアブル・ブリシェーブ・フィルター）は、低域と高域をブーストし、中域（380Hz 周辺）をカットします。ロックには最適なパワー感が得られるフィルターであり、またスラップベース・プレイヤーの好みにも合うフィルターといえます。

この 2 つのフィルターは最初、オフの状態にしておき、徐々にお好みの効果具合に調整してゆくと良いでしょう。また、調整は当初、一方ずつ行い、追って 2 つのフィルターを組み合わせると、素晴らしい効果が得られることでしょう。

## 2. フロントパネル



### 1. アンバランス 1/4" 入力ジャック

1/4" インプットジャック（1）は、パッシブとアクティブのベース両方に使うことができます。

### GAIN と MASTER

フロントパネルには、ボリュームをコントロールする 2 つのノブがついています。GAIN (2) はアンプユニットのイコライザーやエフェクトループといった機能を含むブリアンプ部に、どれくらいのシグナルを入力させるかをコントロールするものです。MASTER (10) ボリュームはパワーアンプ部からスピーカーキャビネットへの出力を調整するものです。

もしプレイ中に青い CLIP ランプ（3）が点灯したら、歪みをなくすためにゲインを下げてください。

アンプに楽器を接続する前には、必ずゲイン（2）とボリューム（10）を絞った状態にしておいてください。そして、楽